

「かぼちの馬車」「はれのひ」など個人投資家や消費者を喰い物にした事件が多発する中、全国のゴルフレッスンプロ1千人を「騙し」た新事件が注目を集めている。主役は2017年に破産した「ゴルフスタジアム」(以下ゴルフ社)。その手口は「かぼちの馬車」に酷似しており、同事件で融資に関わったスルガ銀行と同様、杜撰な融資をした大手信販会社にも批判が集まっている。

ものの2分のローン審査

「事件」の概要はこうだ。ゴルフ社はレッスンプロに「広告を掲載させてくれれば無料でホームページを作成する」と持ちかけた。しかし契約書ではレッスンプロが数百万円のインジットソフトを信販会社のクレジットで購入したことになっており、ゴルフ社の資金繰り悪化で広告料の支払いが停止。レッスンプロの負債だけが残った。クレジット契約を結んだレッ

00万円近くかかるのだが、稲垣のホームページに広告スペースを作り、ゴルフ社が広告を集めてくる。この広告費でホームページの制作・管理費用を相殺するから、稲垣の負担はゼロだというのである。「ホームページ作成」ではローンが組みにくいので「形の上だけウチからソフトウエアを買ったことにしてくれ」と言う。稲垣はなおも尋ねた。

「広告が集まらなかつたら？」
「その時は弊社が自社広告を出しますので、稲垣様の負担は発生いたしません」
「でも俺はローンが組めない」「とりあえず、この場で申請だけでもしていただければ」
試しに申請してみると、もの

の2分で信販会社から「審査を通りました」と返答が来た。しばらくするとゴルフ社から小さな包みが送られてきた。入っていたのは1枚のCD-ROM。パッケージには「Motion Analyzer (モーション・アナ

レックスプロは約1千人。負債残高は40億円にのぼり、すでに返済不能で自己破産した人もいる。驚いたレックスプロたちは、

さくら共同法律事務所(東京都千代田区)の西村國彦弁護士ら

「スルガ方式」でボロ儲け 信販8社が悪徳融資

ゴルフスタジアムの詐欺事件の片棒を担いだ信販会社の甘い与信管理が1千人の被害を生んだ。



信販会社に立ち向かうゴルフスタジアム被害者を守る会

を中心に、「ゴルフスタジアム被害者を守る会」を結成。614名がジャックス、オリコ、クレディセゾン、セディナ、ビジネスパートナー、三井住友トラスト、東京センチュリーリース、三菱UFJリースの信販会社8社を相手に債務不存在の確認を求めて集団提訴した。17年7月には守る会のメンバー18名による破産申し立てを受け、ゴルフ社は東京地裁から破産開始の決定を受けた。

「ただより高い物はない」
「引つかかった側も脇が甘い」
「そう決めつける前に千葉県のゴルフ練習場で教えているレッスンプロ稲垣裕太(仮名、50歳)のケースを見て欲しい。」

ライザー」と書いてある。ゴルフスイングを解析するためのソフトウエアだった。
「なんか妙なもんが送られて来たぞ」——。稲垣が電話をすると、ゴルフ社の営業マンは明るい声で言った。
「あ、それが前にお話ししたソフトウエアです」
「捨てちまうぞ」
「いや、とりあえず持つといってください」

返せない人にも貸す

ゴルフスタジアムは約束通り稲垣のホームページを作った。期待したほど生徒は集まらなかったが、広告収入はあるようだった。稲垣にホームページの制作費用が請求されることはなかった。

17年2月、稲垣のところには大手信販会社から請求書が送られてきた。月額8万6400円とある。全く身に覚えが無いので電話で確認すると、信販会社は稲垣と「クレジット契約を結んでいる」という。憤慨した稲垣

がゴルフ社に電話をすると営業マンはしれつと言いつつ放った。「すみません。思ったより広告が集まらなくなりました。あと稲垣様にお支払いいただくことになりました」
「そんな話は聞いてない」
「契約書、ちゃんとお読みいただきましたか」

契約を読み返すと、稲垣はゴルフ社からソフトウエアを592万円で購入し、信販会社でローンを組んで月々8万6400円を84回で返済することになっていた。ゴルフ社は広告掲載料として同額を稲垣に支払い、これがローンの返済に充てられていたが、ゴルフ社からの支払いが途絶えたため、信販会社から稲垣に請求が来たのだ。

ホームページを土地・建物、広告収入を家賃に置き換えれば、高額なシェアハウスの購入者に賃借料を毎月支払う「かぼちの馬車」の「サブリース」とそっくりだ。スマートデイズからの家賃収入が途絶えた「被害者」

「ホームページを作りませんか」と、稲垣がゴルフ社の社員と名乗る若い男に声をかけられたのは13年春のこと。ゴルフ人口減少でレッスンプロの仕事は減るばかり。

当然、レッスンプロの間では生徒の奪い合いが起きている。口コミには限界があり、手っ取り早く生徒を増やすなら何と言つてもインターネットである。「ホームページを作らないか」という勧誘には心が動いた。しかし問題は費用である。生徒数は減る一方、台所は火の車だ。「どうせ高いんだろ。そもそも俺ではローン審査に通らない」稲垣がそう言うと、ゴルフ社の営業マンが言った。
「実は、タダなんです。審査も多分、大丈夫です」
「えっ、無料なの？」
「はい、ちよつとした仕組みがあります」と、営業マンが説明した仕組みはこうだ。
まずゴルフ社が稲垣のためにホームページを作る。本来、6

は延べ700人以上、ゴルフ社からの広告収入が途絶えた「被害者」は1千人である。

問題の背景には金融業界内で『スルガ方式』と呼ばれる融資手法がある。審査基準を極端に低くし、返済能力の乏しい人にも積極融資する。その代わりに高い金利と、本契約とは別の抱き合わせ契約でローンを組ませる。スルガはスマートデイズ、信販8社はゴルフスタジアムの不正を黙認して莫大な利益を上げた。ゴルフ社はデータ解析でID野球を流行らせたアソボウズの創業者、片山宗臣が04年に立ち上げた会社だが、片山は07年に経営を退き、堀新が社長になった。関係者によると堀には自己破産歴があり、よくない噂が流れている。ゴルフ社単独ではこれほどの風呂敷が広げられるはずもなく、信販8社の甘い与信管理が被害拡大を招いたことは疑う余地がない。サブリースの闇は深い。(敬称略) ㊦

■筆者紹介 大西康之 ジャーナリスト